

令和7年度文化庁「国際文化交流・協力推進事業」
(TICAD9関連イベントに係る調査及び企画運営実施業務)
委託業務成果報告書



2026年3月31日

令和7年度文化庁「国際文化交流・協力推進事業」

(TICAD9関連イベントに係る調査及び企画運営実施業務)実施内容

- **実施概要** 第9回アフリカ開発会議(TICAD9)でのパネル展示およびシンポジウム
 - ・ **実施内容①**: パネル展示「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」
概要、展示内容
 - ・ **実施内容②**: シンポジウム「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」
概要、参加者状況、シンポジウム後のフォトセッション/パネル展示説明
 - ・ 事前告知
 - ・ 当日告知
 - ・ 掲載メディア
 - ・ アーカイブ配信
- **実施概要** アフリカ5か国(南アフリカ・ケニア・ナイジェリア・モロッコ・エジプト)のマンガ市場調査
 - ・ **実施内容①**: 「アフリカ5か国のマンガ市場調査」報告セミナー
概要、事前告知、当日の実施状況、参加者状況、参加者アンケート(集計結果)
 - ・ **実施内容②**: 報告書とセミナーアーカイブ動画の公開
概要等

実施概要 第9回アフリカ開発会議(TICAD9)でのパネル展示およびシンポジウム

●第9回アフリカ開発会議(Tokyo International Conference on African Development: 略称 TICAD9)

開催日程: 2025年8月20日(水)・8月21日(木) 10:00-19:30
2025年8月22日(金) 10:00-14:10(終了)

会場: パシフィコ横浜
神奈川県横浜市西区みなとみらい1丁目11
みなとみらい駅から徒歩5分、桜木町駅から徒歩12分
入場料: 無料(一般来場者 参加可能)



●実施内容①: パネル展示「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」

実施日: 開催期間中常設
会場: パシフィコ横浜 展示ホールD / B-34
主催: 文化庁

●実施内容②: シンポジウム「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」

実施日: 2025年8月21日(木) 14:00-15:30 ※受付: 13:30~
会場: パシフィコ横浜 展示ホールD / S-05
言語: 日本語・フランス語(日仏同時通訳あり)
定員: 150名(先着順)
事前申し込み期間: 2025年8月4日(月)~8月20日(水) 17:00
参加費: 無料
主催: 文化庁



※パシフィコ横浜周辺でのTICAD9案内

※パネル展示およびシンポジウムは同テーマにて連動して開催

実施内容①: パネル展示「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」

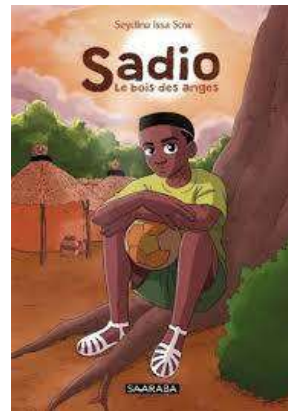


※パネル展示ブースB-34での設置

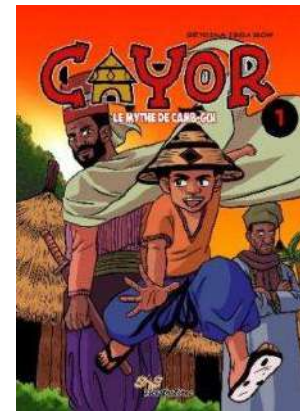
実施日: 開催期間中常設
 会場: パシフィコ横浜 展示ホールD / B-34
 主催: 文化庁



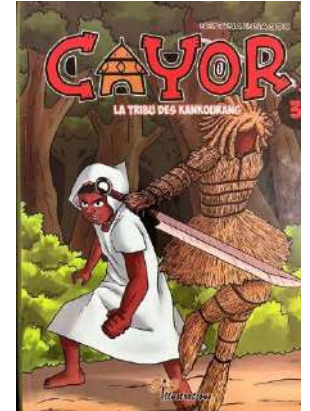
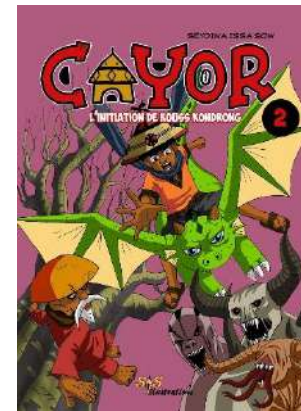
※セネガルの漫画家、Seydina Issa Sow氏のマンガ4冊を展示



Sadio : le bois des anges



CAYOR vol. 1-3



実施内容①: パネル展示「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」

● 展示内容

1. アフリカの漫画家紹介

Younes El haroussi氏のパネル(モロッコの漫画家)

Younes El haroussi
ユネス・エル・ハルシ
モロッコ / Morocco

主要作品 / Featured Work
MOAD
作品概要 / Synopsis
カサブランカ美術大学は、最も有名な教授の謎の失踪に陥っていた。しかし美術大学で学ぶ素晴らしい学生モアドにかつば、それは真なる失踪ではなく、解かれるべき謎めいたパズルだった。サラとザクという2人の友人と共に、歴史の闇に隠された、ある陰謀を明らかにする。それ13人の命を危険に晒すだけでなく、これまで正しいと思っていた全てを揺るがすのであった。

Casablanca Art University is rocked by the sudden disappearance of its most celebrated teacher. For brilliant art student Moad, this is no mystery, but a cryptic puzzle he's compelled to solve. Joined by his friends Sarah and Zak, he uncovers a long-forgotten conspiracy that puts not only their lives at risk, but challenges everything they believe to be true.

プロフィール / Profile
ビジュアルアーティストとして物語制作にも専攻的なユネス・エル・ハルシは、2005年より、著名なクライアント向けに視覚芸術やストーリーテリングのサービスを提供。モロッコのカサブランカを拠点として、アートディレクター、コンセプトアーティスト、ストーリーボード作家、2D/3D作家として多様なプロジェクトに取り組んでいる。送付媒体は幅広く、広告、アニメ、映画、ビデオゲーム、コミックなど多岐にわたる。また、ゲームデザイン、2D/3Dアニメ、マンガの歴史、アートと物語の制作過程についての指導者としても活躍している。

Younes El haroussi is a visual artist with a passion for storytelling. He has been providing visual art and storytelling services to renowned clients since 2005. Based in Casablanca, Morocco, he has worked as an art director, concept artist, storyboard artist, and 2D/3D artist on a diverse range of projects. His expertise extends to various industries including advertising, animation, film, video games and comics. He also teaches game design, 2D/3D animation and manga history, and art and story creation process.

その他の作品 / Other Works
BOKEY, SBS, MEVI

Web/SNS
Facebook, LinkedIn, Instagram

Jean Bindjouli氏のパネル(カメルーン出身・セネガル在住の漫画家)

Jean Bindjouli
ジャン・ビンジュリ
カメルーン / Cameroon

主要作品 / Featured Work
SQ54
作品概要 / Synopsis
グリオット王國最後の継承者サマンサ・O・アダは、宇宙の精霊の生ける五集、イヨモ受け継いでいる。勢力権民争いによって父を殺害されたアマリサは、謎めいた執事ローマンと共に真実を隠し求める旅に出る。行方不明を憂うサマンサ、C.A.D.E.N.A.S (Conglomérats Africains des Élus et Sénateurs des Nations Souveraines) の呪い、グリオット王國内の反逆者、人々の魂を喰らうパンババAIに立ち向かう2人、魂の波動と記憶が交差する戦いの中で、サマンサが選ぶのは、復讐か、再生か。

Samantha O. Ada, last heir of the Griots, carries the Iyo – the Living Word of the Cosmic Spirits. After her father is murdered by the Nine Colonial Archies, she sets out in search of the truth, accompanied by Roman, her mysterious butler. Standing against them: the tyranny of the Nine Archies, the lies of C.A.D.E.N.A.S (Conglomérats Africains des Élus et Sénateurs des Nations Souveraines), traitorous Griots, and vampiric Ais that feed on souls. In this war of vibrations and memory, Samantha must choose: vengeance or rebirth?

プロフィール / Profile
カメルーン人のマンガ・ウェブトゥーン作家、イラストレーター、ビジュアルデザイナーとしてグラフィック制作の分野で10年以上のキャリアを持つ。視覚的な物語とシリーズ作品ならではの世界観に魅了され、マンガの持つ語り口のかたちとウェブトゥーンの超スクロールの流れとリズムを融合させたデジタル作品を生み出している。ダイナミックな構図、インパクトのある物語、細部へのこだわりが特徴的で、コミック、アニメ、新たな技術に着想を得たジャンの作品は、作品世界への没入感とテンポの良い視覚体験を生み出し、幅広い読者の関心を集めている。

Jean Bindjouli is a Cameroonian manga and webtoon artist, illustrator, and visual designer with over 10 years of experience in graphic creation. Passionate about visual storytelling and serialized worlds, he creates digital works that blend the narrative intensity of manga with the vertical flow and rhythm of webtoons. His art features dynamic composition, impactful storytelling, and a sharp eye for detail. Inspired by comics, animation, and new technologies, his work offers immersive, fast-paced visual experiences that resonate with diverse audiences.

その他の作品 / Other Works
Eyes
twilight of childhood

Web/SNS
Facebook, LinkedIn, Instagram, YouTube

※どちらもアフリカのフランス語圏の漫画家

実施内容①: パネル展示「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」

● 展示内容

2. アフリカのマンガ事情紹介

「フランス語圏アフリカのマンガ文化とファンの世界」パネル

フランス語圏アフリカのマンガ文化とファンの世界

Manga Culture and Fandom in Francophone Africa

フランス語圏アフリカにおけるコミック文化は、1930年代、ベルギー一種コゴのいくつの中核的コミックが掲載されたことにより始まりました。その後、1990年代後半まで、主にフランスとヨーロッパの作品が読まれ、それらの影響を受けた作品がアフリカ出身の作家によって発表されました。

1990年代後半から、日本のアニメがテレビ放送され始め、2000年代には製作マンガも書店に並ぶようになり、これは、フランスの衛星チャンネルCanal (カナール) がアフリカでサービスを開始し、多くのアニメを放送したことが関連しています。現在では、日本のマンガとアニメは広く親しまれています。2000年代以降は、インターネットやスマートフォンをオンラインで読む人も増えました。もちろん、海運版マンガの制作や配布などは違法行為です。また、出版の遅れや本屋の数の少なから、大都市に限定している読者にとって、

リアルタイムで作品が読める海運版は、切実な選択肢でもありファンたちは喜んでいます。

日本のマンガとともに育った世代の中から、ファン同士がつながるコミュニティが生まれ、自らマンガを描く読者たちも登場しました。フランス語を共有する国や地域をまたぎ、ファンや作家同士の交流が活発に行われています。

さらに、2000年代からはアフリカ各地でマンガ関連のフェスティバルも多発開催されるようになりました。書籍会、ワークショップ、トークショー、ライブイベント、コスプレ大会などを通じて、アーティストとファンがともに文化を育む場となっています。代表的な例として、コートジワールのCoco Bullie、アルジェリアのFIBDA、カメルーンのMboa BD、コンゴ共和国のBIBI BD、そして日本のマンガ・アニメに特化したセネガルのPlanète Aなどが挙げられます。

The origins of comic culture in Francophone Africa date back to the 1930s, when comics began appearing in newspapers in the Belgian Congo. Until the late 1990s, most comics read in the region came from Europe—mainly France—and many African creators began publishing works influenced by these styles.

In the late 1990s, Japanese anime began airing on television, and by around 2000, original manga volumes started appearing in local bookstores. This is related to the launch of services in Africa by the French pay-TV channel Canal, which broadcast numerous anime series.

Since the 2000s, the spread of the internet and smartphones has led to a rise in online manga reading, often via scanned copies—many of which are pirated. While producing and distributing pirated content is illegal, fans often explain that official publications are delayed, and bookstores are scarce outside major cities. For some readers, these

unauthorized versions become a necessary way to access stories soon after they are released.

Out of the generation that grew up with Japanese manga, new communities of fans began to form. Some took it further, starting to create their own manga. In Francophone Africa, where many countries share a common language, exchanges between fans and creators have flourished across borders.

Since the 2000s, manga festivals have also emerged across the African continent. These events, which include exhibitions, workshops, artist talks, live drawing sessions, and cosplay contests, have become spaces where artists and fans come together to co-create and nurture cultural expression. Notable examples include Coco Bullie in Côte d'Ivoire, FIBDA in Algeria, Mboa BD in Cameroon, BIBI BD in the Republic of the Congo, and Planète A in Senegal and Mali, which specializes in manga and anime.



(1) アフリカでマンガ文化が広がるには、読者の関心や読者の集まる場所の確保が不可欠である。フランス語圏アフリカでは、読者の集まる場所は、ファンが自らマンガを描く読者たちも登場しました。

(2) アフリカでは、2000年代後半には日本のアニメがテレビ放送され始め、2000年代には製作マンガも書店に並ぶようになり、これは、フランスの衛星チャンネルCanal (カナール) がアフリカでサービスを開始し、多くのアニメを放送したことが関連しています。

(3) アルジェリアでは、2000年代後半には日本のアニメがテレビ放送され始め、2000年代には製作マンガも書店に並ぶようになり、これは、フランスの衛星チャンネルCanal (カナール) がアフリカでサービスを開始し、多くのアニメを放送したことが関連しています。

「アフリカの作家が描く自分たちの物語」パネル

アフリカの作家が描く「自分たちの物語」

African Artists Telling Their Own Stories

アフリカ人作家による多くのマンガでは、アフリカの人々が主人公となり、自らの文化や歴史を描きます。これまでマンガの中で他者として描かれてきた「他者」が、アフリカ人キャラクターが、アフリカの現実や想像世界の中で主役として描かれることは、アフリカの読者にとって大きな意義を持ちます。

実際、ここで紹介しているセイディナ・イッサ・ソウのように、「自分たちの物語がない」という思いからマンガを描き始めた作家もいます。子どもたちが自分の文化に誇りを持ち、自分の言葉で話せる物語に出会えるようにすること、それがアフリカ人マンガの大きな使命の一つです。

こうした作品は、アフリカの読者にとって、目を再発見するきっかけとなり、非アフリカ人にとって、アフリカの内幕の視点や価値観に触れる入り口となります。物語を通して見えてくるのは、多様で複雑で、そして豊かなアフリカの姿です。

In many manga and comics created by African artists, African people take center stage as protagonists, telling stories rooted in their own cultures and histories. For a long time, African readers and creators were depicted as "others"—often relegated to supporting roles. Now, they are finally becoming the storytellers themselves. Seeing African characters as the central figures in both real and imagined African worlds carries powerful meaning for African readers.

In fact, artists like Seydine Issa Sow, featured here, began creating manga out of a sense that "our own stories don't exist". One of the key missions of African manga is to allow children to encounter stories told in their own words—stories that inspire pride in their culture.

These works offer African readers a chance to rediscover themselves and provide non-African readers with a window into African perspectives and values. Through these narratives, we encounter an Africa that is complex, diverse, and deeply alive.



ヨーロッパで育ち、アフリカ人女性の日常を描く。健康や日々の出来事を中心に描く作品。

A central idea of the story about an African woman living in Europe, portraying her everyday realities through humor and common stereotypes.



著: セイディナ・イッサ・ソウ
この物語は、ヨーロッパで育ち、アフリカ人女性の日常を描く。健康や日々の出来事を中心に描く作品。

Ebène [27歳]
1990年、カメルーンで生まれ、フランスで育ち、2018年にフランスのアフリカ文化センターで作家としてデビュー。その作品は、アフリカ人の日常や文化を描く。健康や日々の出来事を中心に描く作品。



かつての西アフリカ王国(1549-1876)を舞台に、歴史や文化をテーマにした冒険と探検のファンタジー。

A historical fantasy set in the former Cayor Kingdom (1549-1876). Following Prince Modja's journey of exile, survival, and growth.



著: セイディナ・イッサ・ソウ
この物語は、かつての西アフリカ王国(1549-1876)を舞台に、歴史や文化をテーマにした冒険と探検のファンタジー。

Seydine Issa Sow (セディナ・イッサ・ソウ)
1990年、カメルーンで生まれ、フランスで育ち、2018年にフランスのアフリカ文化センターで作家としてデビュー。その作品は、アフリカ人の日常や文化を描く。健康や日々の出来事を中心に描く作品。

※2023年度に京都国際マンガミュージアムで開催された「アフリカマンガ展 -Comics in Francophone Africa-」の内容を一部抜粋・編集して作成

実施内容②: シンポジウム「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」

実施日: 2025年8月21日(木) 14:00-15:30
※受付: 13:30~
会場: パシフィコ横浜 展示ホールD / S-05
言語: 日本語・フランス語(日仏同時通訳あり)
定員: 150名(先着順)

●登壇者

- ・赤松 健氏
漫画家・参議院議員
文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官
- ・Younes El haroussi氏
漫画家/モロッコ出身・在住
- ・Jean Bindjouli氏
漫画家/カメルーン出身・セネガル在住
- ・モデレーター: ユースギョン氏
マンガ研究者
京都精華大学国際文化学部専任講師



第9回アフリカ開発会議 (TICAD9) にて開催
シンポジウム「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」

開催日時 2025年8月21日(木) 14:00 - 15:30
会場 パシフィコ横浜 展示ホールD

参加者募集中(無料)



※シンポジウム告知用キービジュアル

実施内容②: シンポジウム「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」



※シンポジウム壇上の様子

実施内容②: シンポジウム「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」



※アフリカの漫画家の作品画像などもスクリーンで紹介



※ほぼ満席のシンポジウム会場



※シンポジウム会場入り口に告知用パネルやポスターを掲示

実施内容②:シンポジウム参加者状況

●事前申し込み

事前申し込み期間:2025年8月4日(月)~8月20日(水)17:00

事前申込者数:94名

当日参加者数:66名(70%の出席率)

●当日参加

当日参加者数:36名

⇒参加者数合計102名

※ただし、シンポジウムが始まって以降に飛び込みで来場された海外の方の中に
受付を通らずに直接座ってしまった方が10名弱いたため、実際としては、その分がプラスされていた状況かと思われる。

※視認する限り、ほぼ空き席がない状況となっていた。

●参加メディア

読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞社、新聞之新聞社、新文化通信社、共同通信社、
株式会社イード「Branc」編集部、ワールドインテリジェントニュース

●シンポジウム後個別取材参加メディア

読売新聞、株式会社イード「Branc」編集部

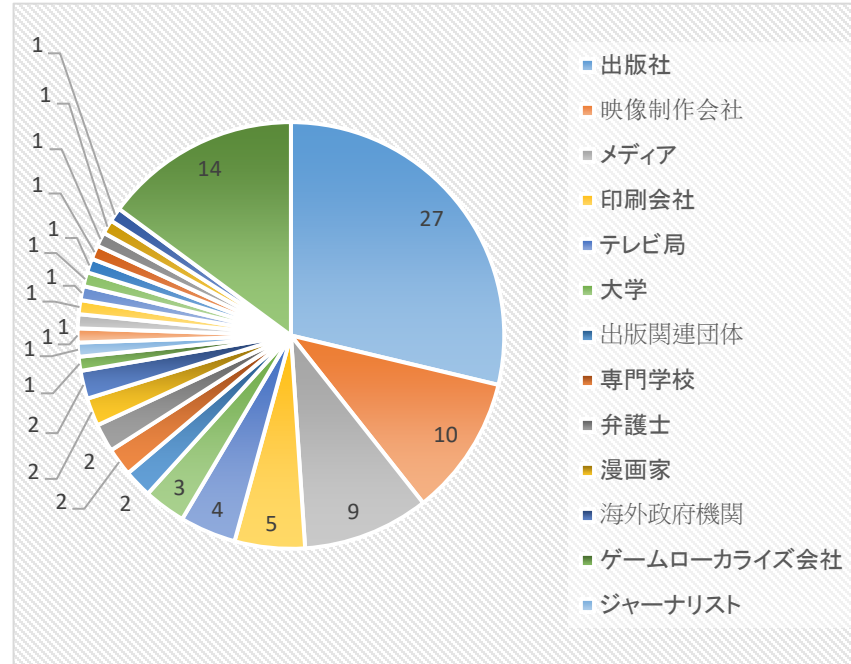


実施内容②:シンポジウム参加者状況

●事前申し込み者内訳

企業種別	申込人数
出版社	27
映像制作会社	10
メディア	9
印刷会社	5
テレビ局	4
大学	3
出版関連団体	2
専門学校	2
弁護士	2
漫画家	2
海外政府機関	2
ゲームローカライズ会社	1
ジャーナリスト	1
プロモーション会社	1
マーケティング会社	1
マンガ体験サービス	1
音楽制作会社	1
写真家	1
総合コンテンツ企業	1
文化庁	1
翻訳会社	1
社労士	1
国際交流団体	1
その他・不明	14

94



※出版社からの申し込みが最も多く、次いで映像制作会社となっており、アフリカへ進出を検討している様子が伺える。

このシンポジウムを知ったきっかけ	回答者数
VIPOからのメールニュース・VIPOサイト	47
PR TIMESからのプレスリリース	7
ウェブ広告	6
TICAD9サイト	6
Japan Book Bankからのメールニュース	3
SNS	2
日本書籍出版協会からの案内・メールマガジン	2
TICAD イベントプログラム	2
X	2
上司からの転送	1
同僚から教えてもらった	1
漫画家の知人の紹介	1
その他	12

92

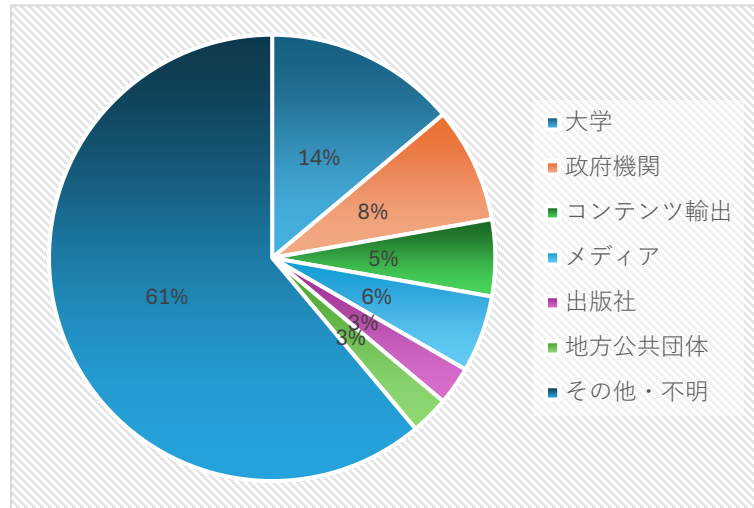
※2名は回答なし

実施内容②:シンポジウム参加者状況

●当日参加者内訳(当日席扱い)

企業種別	参加者数
大学	5
政府機関	3
コンテンツ輸出	2
メディア	2
出版社	1
地方公共団体	1
その他・不明	22

36

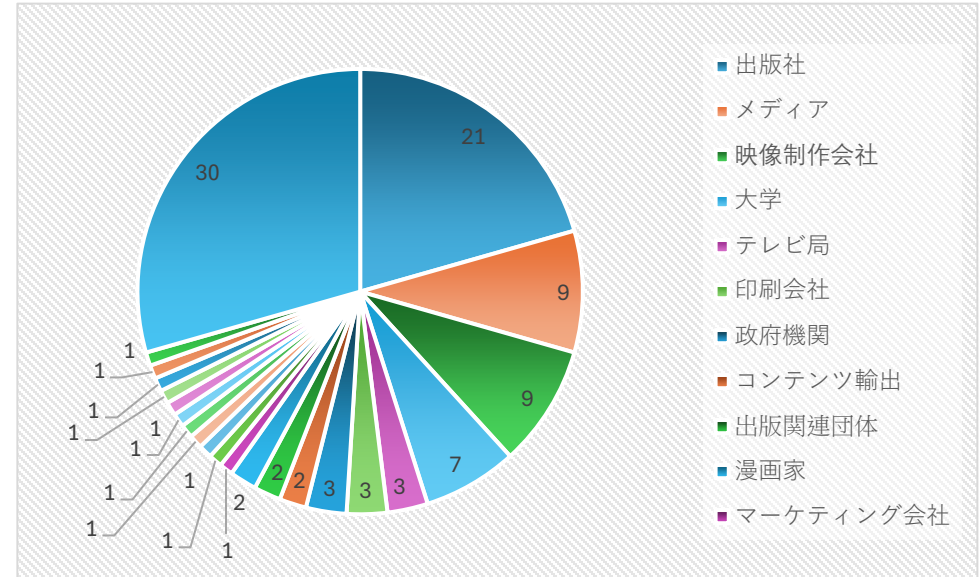


※当日参加の「その他」は、他の展示ホールへ出展している事業者の参加が多い印象を受けた。

●参加者数(合計)内訳

企業種別	参加者数
出版社	21
メディア	9
映像制作会社	9
大学	7
テレビ局	3
印刷会社	3
政府機関	3
コンテンツ輸出	2
出版関連団体	2
漫画家	2
マーケティング会社	1
マンガ体験サービス	1
音楽制作会社	1
国際交流団体	1
写真家	1
社労士	1
専門学校	1
総合コンテンツ企業	1
地方公共団体	1
文化庁	1
弁護士	1
その他・不明	30

102



※大手出版社だけでなく、漫画に関わる幅広い層から参加者が集まった。途中離席する人も非常に少なく、最後までシンポジウムを聴講していた。

実施内容②: シンポジウム後のフォトセッション / パネル展示説明



※メディア合同でパネル展示前でフォトセッションを実施



※パネル展示や見本誌を確認するシンポジウム参加者



※モデレーターのユースギョン氏によるパネル内容説明



事前告知

●8月4日(月)および8月8日(金)にVIPOメールニュースにて発信 (コンテンツ業界関係者:登録者1.5万人超)

「VIPO（映像産業振興機構）からのお知らせ」

2025/8/8

正しく表示されない方はこちら

令和7年度文化庁「国際文化交流・協力推進事業」

第9回アフリカ開発会議（TICAD9）にて

「アフリカ諸国のマンガ産業」に関するシンポジウムを8/21（木）に開催

漫画家・参議院議員の赤松 健氏の登壇が決定！

VIPO（ヴィーポ）が運営を受託しております令和7年度文化庁「国際文化交流・協力推進事業」は、日本コンテンツの代表格であるマンガについて、日本・アフリカ間の文化及び人材交流を深化させるとともに、アフリカで関心が高まりつつある日本のマンガの将来的な展開につなげることを目的としています。

本事業の一環として、2025年8月20日（水）～22日（金）にパシフィコ横浜にて開催される第9回アフリカ開発会議（Tokyo International Conference on African Development：略称 TICAD9）にて、「アフリカ諸国のマンガ産業」に関するシンポジウムを開催いたします。漫画家・参議院議員の赤松 健氏とアフリカの漫画家2名、マンガ研究者を交え、アフリカでのマンガ産業や市場動向について議論します。また、アフリカでのマンガの読まれ方やマンガビジネス、現地で人気のマンガジャンル等をテーマとし、アフリカで日本のマンガを広げていくための策を考えます。アフリカのマンガ事情や現地でのマンガ展開についてご関心のある方は、ぜひご参加ください。

また、アフリカ諸国のマンガ産業に関するパネル展示も、TICAD9会場にて実施いたします。アフリカで人気のある日本のマンガタイトルや読者の属性、言語、ファンの動き等をご紹介します。シンポジウムへのご参加と合わせて、ぜひ会場に足をお運びください。

シンポジウム「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」



●同日程にて、PR TIMESからもプレスリリースを発信 取材案内も発信



【参加無料】漫画家・参議院議員 赤松 健氏の登壇決定！第9回アフリカ開発会議（TICAD9）でシンポジウム「アフリカ諸国のマンガ産業とその市場について」開催

漫画家でもある赤松 健参議院議員×アフリカ漫画家が登壇！日本では紹介機会の少ないアフリカのマンガ市場や現地での日本マンガの人気などを語るシンポジウムを8/21（木）パシフィコ横浜で開催

映像産業振興機構（VIPO） 2025年8月8日 11時30分



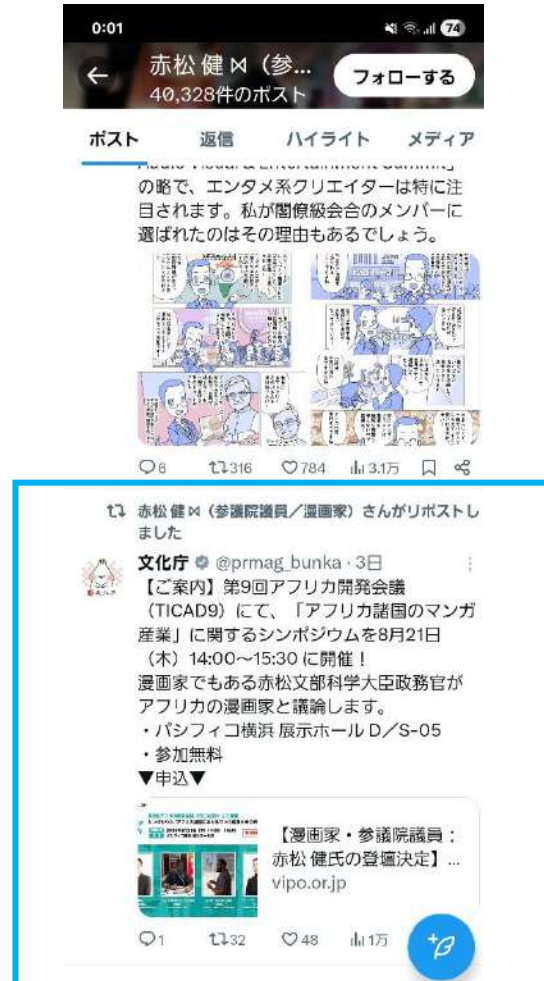
特定非営利活動法人映像産業振興機構（略称：VIPO [ヴィーポ]）が運営を受託しております 令和7

事前告知

●8月8日(金)に文化庁様Xアカウントより告知発信



●8月8日(金)に赤松様Xアカウントよりリポスト発信

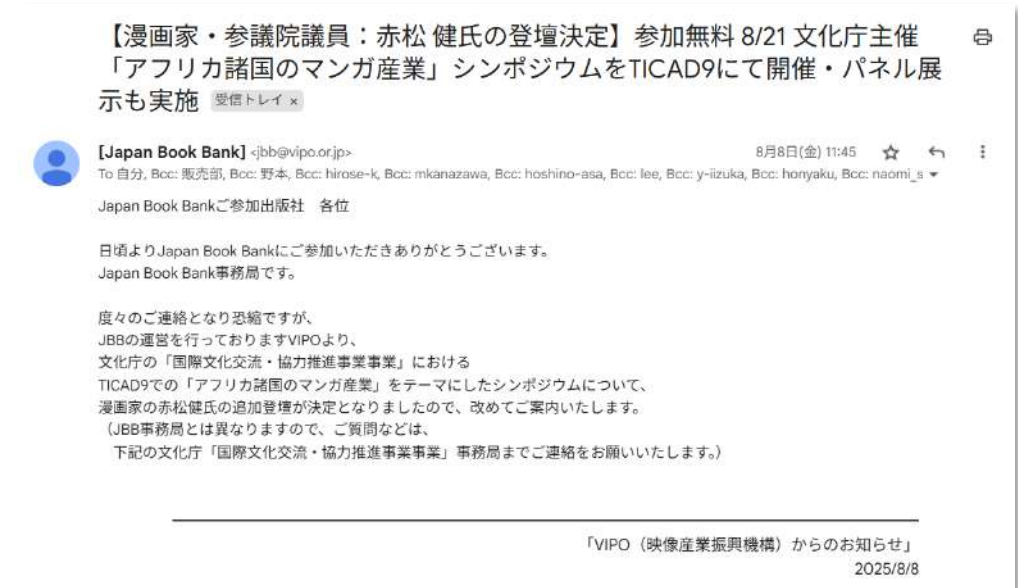


事前告知

●8月19日(火)に赤松様Xアカウントより再度の告知発信



●8月4日(月)および8月8日(金)に日本書籍出版協会(書協)とVIPOが運営する海外向けオンライン出版コンテンツカタログ「Japan Book Bank」の登録出版社へも案内メールを送信



●8月15日(金)に書協からも会員社向けに案内メールを送信

事前告知

- 8月8日(金)～8月20日(水)に、告知と同内容にてGoogleディスプレイネットワーク広告を出稿
 (※全国紙への出稿は時間的に間に合わなかったため、代替として実施/全国紙への出稿と同等の50万円予算で実施)

WEB広告掲載レポート										
アイテム	: 「アフリカ諸国のマンガ産業」シンポジウム訴求									
実施広告メニュー	: Googleディスプレイネットワーク									
集計期間	: 2025/8/8(金) ～ 2025/8/20(水)									



▼全体数値

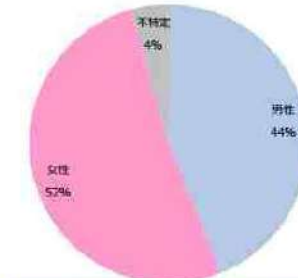
ターゲット	表示回数	表示単価	リーチ数	リーチ単価	UUリーチ数	UUリーチ単価	クリック数	クリック率	クリック単価	配信金額
キーワード	1,293,927	¥0.39	954,220	¥0.52	596,625	¥0.84	18,173	1.40%	¥27.5	¥500,000

デバイス別	表示回数	クリック数	クリック率	クリック単価	費用総額
パソコン	72,935	394	0.54%	¥38.1	¥14,993
スマートフォン	1,150,346	16,172	1.41%	¥27.8	¥449,733
タブレット端末	70,565	1,606	2.28%	¥22.0	¥35,269
テレビ画面	81	1	1.23%	¥5.8	¥6

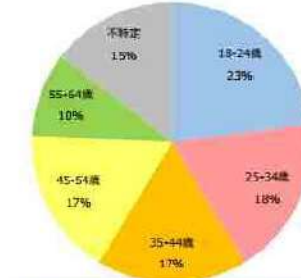
男女別	表示回数	クリック数	クリック率	クリック単価	費用総額
男性	567,754	11,019	1.94%	¥19.5	¥214,364
女性	670,430	6,743	1.01%	¥40.7	¥274,402
不特定	55,743	411	0.74%	¥27.3	¥11,234

年齢別	表示回数	クリック数	クリック率	クリック単価	費用総額
18-24歳	296,889	6,674	2.25%	¥15.9	¥106,314
25-34歳	238,167	2,421	1.02%	¥36.7	¥88,890
35-44歳	224,100	1,991	0.89%	¥40.9	¥81,455
45-54歳	221,290	2,828	1.28%	¥37.3	¥105,603
55-64歳	125,772	1,062	0.84%	¥54.4	¥57,791
65歳以上	-	-	-	-	-
不特定	187,709	3,197	1.70%	¥18.8	¥59,948

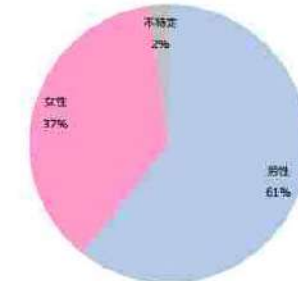
性別/リーチ数割合



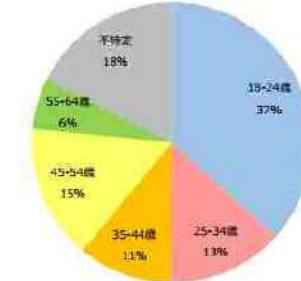
年齢別/リーチ数割合



性別/クリック数割合



年齢別/クリック数割合



事前告知

●8月8日(金)～8月20日(水)に、告知と同内容にてGoogleディスプレイネットワーク広告を出稿

(※該当するキーワードが入力されると、広告が出る仕組み)

▼キーワード別

キーワード	表示回数	クリック数	クリック率	クリック単価	費用総額
コンテンツ制作	10,713	252	2.35%	¥13.1	¥3,310
漫画	23,125	104	0.45%	¥91.7	¥9,539
マンガ	18,755	88	0.47%	¥50.9	¥4,476
漫画 アニメ	9,804	65	0.66%	¥26.3	¥1,707
まんが	12,382	35	0.28%	¥43.3	¥1,517
アフリカ	1,017	10	0.98%	¥13.3	¥133
漫画編集者	76	2	2.63%	¥15.0	¥30
漫画 セミナー	3	0	0.00%		¥0
漫画 会議	1	0	0.00%		¥0
漫画 スクール	67	0	0.00%		¥0
漫画 インタビュー	1	0	0.00%		¥0
文化 漫画	1	0	0.00%		¥0
編集 漫画	9	0	0.00%		¥0
パシフィコ横浜	27	0	0.00%		¥0
マンガ 描き方	3	0	0.00%		¥0
アニメーション制作	17	0	0.00%		¥0
漫画 広告	1	0	0.00%		¥0
漫画 イベント	3	0	0.00%		¥0
企画 漫画	2	0	0.00%		¥0
アフリカ 漫画	1	0	0.00%		¥0
漫画 制作	31	0	0.00%		¥0
漫画 表現	1	0	0.00%		¥0

※出稿前半はなかなかキーワードがはまらなかったものの、後半は機械学習が進んだことで、結果としては安価に着地した。

- ・クリック単価:27.5円
- ・クリック数 :18,173

ただ、実際の事前申込者からの回答によると、Web広告からの申し込みは少ない傾向にあった。Googleディスプレイは認知に向いているものの、その意味での寄与に留まってしまった可能性が高いと思われる。

- ・広告代理店からは、今後同様のシンポジウムの申し込み訴求には、Facebookページの作成とその広告展開を強く勧められた。

当日告知

●シンポジウム告知チラシ

8月21日(木)の10:00~11:30に展示ホールDに入った先で
 チラシ200枚を配布
 ⇒興味を持つ方が実際にシンポジウムに来場されていたため、
 一定の効果があったものと思われる。



●告知パネル(A0版)
 パネブースで常設
 シンポジウム展示ム会場前にも
 設置し、ビジュアル面での
 露出をはかった。

掲載メディア

●Global News Asia (2025年8月27日公開)

<https://globalnewsasia.com/article.php?id=10378&&country=1&&p=2>



第9回アフリカ開発会議(TICAD 9)テーマ別イベントの アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場

配信日時：2025年8月27日 6時00分 [ID:10378]

📄 ポスト 📱 シェアする 📌 ブックマーク 65

写真をクリックすると次の写真に切り替わります。



アフリカのマンガ家や読者層、人気作品などを紹介するパネル展示



●@niftyニュース (2025年8月27日公開)

<https://news.nifty.com/article/world/worldall/12137-4433794/photo/>



ニュース > 海外 > 海外総合 > 記事 > 写真

【画像】第9回アフリカ開発会議(TICAD 9)テーマ別イベントの アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場

📱 シェアする 📄 ポスト

2025年08月27日 06時00分 グローバルニュースアジア



アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場。左からマンガ研究者のユースギョン、衆議院議員赤松健、漫画家Younes EL haroussiとjean Bindjouli氏

掲載メディア

●実業之日本社 インスタグラムアカウント(2025年8月27日公開)

<https://www.instagram.com/p/DNrylcFZtJF/>



●ニコニコニュース(2025年8月27日公開)

<https://news.nicovideo.jp/watch/nw18161045>



●exciteニュース(2025年8月27日公開)

https://www.excite.co.jp/news/article/Global_news_asia_10378/image/1/

第9回アフリカ開発会議(TICAD 9)テーマ別イベントの アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場

2025年08月27日(水)06:00

グローバルニュースアジア
GLOBAL NEWS ASIA



アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場、左からマンガ研究者のユースギョン、衆議院議員赤松健、漫画家Younes EL haroussiとjean Bindjouli氏 画像(1枚)

アフリカ約50カ国の首脳が参加し、第9回アフリカ開発会議(TICAD9)テーマ別イベントが、2025年8月20日から22日にかけて横浜市のパシフィコ横浜展示ホールDで「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場」のシンポジウムが開催された。

【その他の写真：フリカのマンガ家や読者層、人気作品などを紹介するパネル展示】

主催は、文化庁とAgency for Cultural Affairs, Government of Japanでアフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場をテーマにシンポジウムが行われた。

ステージには、マンガ研究者のユースギョン、衆議院議員赤松健、漫画家Younes EL haroussiとjean Bindjouliの4人が登壇した。

ユースギョン氏は韓国出身のマンガ研究者・マンガ家で、現在は京都精華大学の専任講師で、2004年に来日し、京都精華大学でストーリーマンガを専攻。大学院ではマンガ表現論を中心に研究を進めて、芸術学博士号を取得している。専門は女性向けマンガで、文化やメディアによってマンガの表現がどう変化するかを研究。さらに、京都国際マンガミュージアム研究員でもある。

赤松健衆議院議員は、文部科学大臣政務官・復興大臣政務官、日本漫画家協会常務理事、Jコミックテラス取締役会長で漫画家という多彩な肩書きを持つ、代表作「ラブひな」「魔法先生ネギま!」「UQ HOLDER」など、ラブコメやファンタジー作品で人気を博した。漫画家としては初の国会議員。

Younes EL haroussi(ユース・エル・ハルーン)モロッコ出身・在住の漫画家でビジュアルアーティストとjean Bindjouli(ジャン・ビンジュリ)氏カメルーン出身・セネガル在住の漫画家で、ウェブトゥーンアーティスト兼イラストレーターとしても活動。

(※この下にも記事掲載あり)

●新聞之新聞社(2025年9月1日発行)

(3) 第21780号 (第3種郵便物認可) 新聞之新聞

漫画家が現状を報告

アフリカ諸国マンガ産業

神奈川県横浜市で開催された第九回アフリカ開発会議(TICAD9)で、文化庁は「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」と題したシンポジウムを八月二十一日に開催した。

同シンポジウムには、漫画家で参議院議員の赤松健氏と、アフリカの漫画家、ユネスコ・エル・ハルシ氏(モロッコ)、ジャン・ビンジュリ氏(セネガル)の三人が、アフリカの漫画産業や市場動向について意見を交わした。

日本の漫画と出合いについて、ビンジュリ氏は、幼い頃にケーブルテレビで「ドラゴンボール」の「ダイナミズム、エネルギーに引きつけられた。小学生の時は友達と漫画のまねをして遊んだ」と振り返り、「GTO」からも大きな影響を受け、「めぞん一刻」も大好きだったと、日本の人気アニメの思い出を話した。

ハルシ氏も子どもの頃に「日本の漫画と出合いについ

「UFOロボ グレンダイザー」のアニメを見て強い印象を受け、それから原作漫画を読んだ。「当時テレビで『超電磁ロボ コン・バトラーV』『鉄人28号』『タイガーマスク』などのアニメが放映され、強い印象を受けた。日本の作品とは知らず、アラブの作品と思っていた」と語った。

赤松氏は日本の漫画の強みを「やはり表現の自由が保障されていること、いろいろなトライアルができ、その中から特に面白いものがアニメ化される。このシステムがある限り海外には負けない」と解説した。漫画家を志したきっかけをビンジュリ氏は「バクマン。」「ONE PIECE」と「明かし、『バクマン。』の高木というキャラクターに自分を投影し、カムルーンを出てダカルに行く冒険のきっかけになった」と述べ、ハルシ氏は「三歳から絵を描くのが好き

で、大好きな漫画・アニメのキャラクターを描ける仕事が理想だった。フランスのバンド・デシネや米国のコミックスよりも日本の漫画はグラフィックスタイルやキャラクターが格好良く好きだった。日本の文化・生活はオリジナルなものがあり、その違いが興味を湧かせてくれた」と回想した。

これに赤松氏は「かつての米国ハリウッド作品もそうだったかもしれないが、文化で分かれ合う、同じ作品を好きになることで価値

観が共有されると仲良くなれる。そこから貿易も進むと良いし、お互いの文化を尊敬し合い、影響を受け合うところから始めると良い」と思っている。日本はエンタメ産業の輸出額を二〇三三年までに二〇兆円に拡大したいとしており、一番注目されているゲーム、アニメでそうやってきているのは「うれし」と語った。

アフリカでの漫画家を取り巻く環境について、ビンジュリ氏は「漫画だけでは食べていけない、グラフィックアーティストもいる」と、ハルシ氏も「私も同じ。漫画やバンド・デシネだけで生活することはかなり困難で、他の収入源が必要だ。それが将来変わることを望んでいる」と現状を

アフリカ文化を描くタブーが多い漫画

ハルシ氏は「ビンジュリさんもそうだが、アフリカ出身の漫画家はアフリカの文化・日常・歴史などを描く作家が多い」と指摘。創作上のタブーについて、ビンジュリ氏は「ホモセクシャルを扱うことは難しく、投獄される。政治と宗教も触れてはいけない」とし、BL(ボーイズラブ)については「概念がない。伝統を重視しているのが、単純に受け入れられない。いろいろな国でホモセクシャルは逮捕の対象なので不可能なレベルだ」と強調した。

ハルシ氏は「セクシャリティ、政治を扱うことは法律で禁止されている。文化的に受け入れられないもの、例えばアルコールの撰

取はイスラム教徒の国では難しい。だから『ちびまる子ちゃん』の主人公の父親は原作ではいつもビールを飲んでいるが、アラブ版ではいつもオレシジュースを飲んでいることにされておりました。日本に来てアルコールだと分かり、納得したと説明した。

その上でハルシ氏は「広く受け入れられているのは少年と青年を対象にした漫画。青年漫画として『AKIRA』『ベルセルク』や浦沢直樹作品などで、キャンブルに関する漫画は存在しない」と話した。

これにビンジュリ氏は「日本にはパチンコやスロットをテーマにした漫画が存

アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について

シンポジウム

The Manga Industry and Market in African Nations

2025.8.21 木 14:50-17:30

赤松の各氏

意見交換を行った、右からビンジュリ、ハルシ、

新聞の3面に大きく掲載(※この下にも記事掲載あり)

掲載メディア

●文化庁様サイト(2025年9月4日公開)

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokusaibunka/94268401.html>

第9回アフリカ開発会議(TICAD9)テーマ別イベントに赤松大臣政務官が出席

パシフィコ横浜にて開催されたアフリカ開発会議(TICAD9)の機会に、文化庁は、8月21日(水)にテーマ別イベントのシンポジウム「アフリカ諸国におけるマンガ産業と市場について」を開催し、赤松大臣政務官が出席しました。

赤松大臣政務官は、文化庁長官の「国際文化・協力推進事業」の一環として実施され、日本コンテンツの優秀なマンガについて、日本・アフリカ両国の文化及び人脈を強化する目的で、アフリカ11国(モザンビーク、ジンバブエ、タンザニア、ケニア、ルワンダ、ブルルンジ、ウガンダ、コンゴ民主共和国、コンゴ共和国)を訪問した中、自身も漫画家でもある赤松大臣政務官は、アフリカから愛読しているマンガの紹介やマンガの普及啓蒙、アフリカでのマンガ産業の発展など、両国のマンガの交流や、両国の人脈の強化やマンガ産業の発展をテーマとした活発な議論を行いました。

赤松大臣政務官はマンガの普及に加え、日本のマンガの魅力を伝える理由や、海外活動の環境、普及策について質問しました。また、「マンガが若者の心をつかんでいる。日本のマンガがアフリカでも人気ジャンル文化として受け入れられていることが、アフリカと日本のマンガが広がり、両国を近づける」との期待を述べました。

このほか、アフリカの人脈のある日本のマンガクリエイターと両国の関係やアフリカのマンガ市場を紹介したパネルディスカッションも実施しました。

文化庁では、日本のマンガがより活躍し活躍できるアフリカにおける展開、分析等を行い、アフリカの日本マンガの広がりや普及に向けた取組みを進めています。

●赤松大臣政務官の「国際文化・協力推進事業」(TICAD9の別イベントに出席)の経緯及び今後の取組(文化庁ウェブサイト) [シグ](#)




- 文化庁について
- 文化庁の概要
- 国際文化
- 文化庁
- 海外展開
- 国際文化交流・国際貢献
- 国際交流・日本推進
- 国際文化・国際貢献
- 国際交流
- 国際文化・国際貢献
- 文化庁
- 文化政策
- 文化庁長官の挨拶、文化政策推進
- 文化庁活動調整委員会

●文化庁様Xアカウント(2025年9月5日公開)

https://x.com/prmag_bunka/status/1963427540330029379

← **ポスト**

 **文化庁** @prmag_bunka

パシフィコ横浜で開催されたアフリカ開発会議(TICAD9)において、文化庁が実施したシンポジウム「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」に、自身が漫画家でもある赤松文部科学大臣政務官が出席！
今後、シンポジウムの動画のアーカイブ公開も予定しています。
[bunka.go.jp/seisaku/kokusa...](https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokusa...)

午前11:22 · 2025年9月4日 · 9,719 件の表示

1 20 46 6

掲載メディア

●読売新聞 朝刊(2025年9月8日発行)

アフリカ 深い日本マンガ愛

8月の第9回「アフリカ開発会議」(I-CADE)に開催し、アフリカ諸国のマンガ産業をテーマとしたシンポジウムが、開演中開かれた。日本のマンガ家やアフリカのマンガ家、現地の子やアフリカのファンが、日本に求められているマンガの姿について話し合った。

横浜でシンポ

日本や米国の作品人気と異なる一方、マンガ人気は若者世代を中心に、社会的地位は低い。現地発の作品は少なく、数少ない地元作品は海外展開が難しい。マンガが海外展開するための課題は多い。シンポジウムでは、海外展開の課題や、海外展開の課題を話し合った。

「日本スタイルの表現多い」

シンポジウムで進行役を務めた京都精華大出身のシンポジウム司会者であるユースキョウジは、アフリカのマンガ家やファンが、日本スタイルの表現が多いと指摘した。

少ない現地作品 産業構築へ支援期待

日本や米国の作品人気と異なる一方、マンガ人気は若者世代を中心に、社会的地位は低い。現地発の作品は少なく、数少ない地元作品は海外展開が難しい。マンガが海外展開するための課題は多い。シンポジウムでは、海外展開の課題や、海外展開の課題を話し合った。

文化面にて大きく掲載(※個別取材内容も含む)

●新文化通信(2025年9月8日発行)

アフリカのマンガ産業を取り巻く環境は?

第9回「アフリカ開発会議」シンポジウム

漫画家2氏と赤松健氏がトーク

社会、文化、タブーの違いなど

海賊版の功罪にも言及

文化庁は8月9日、バンゴ(横浜・西区)で実施された第9回「アフリカ開発会議」内で、シンポジウム「アフリカのマンガ産業」(事務局:映像産業振興機構(AVPRO))を開催した。アフリカのマンガ家やファンが、日本に求められているマンガの姿について話し合った。

学事出版 中高生の読書活動指南

学事出版は、中高生の読書活動を支援するためのガイドブックを出版した。このガイドブックは、中高生の読書活動の現状や課題、読書活動の促進策などを紹介している。

掲載メディア

●Branc. (2025年9月10日公開)

<https://branc.jp/article/2025/09/10/1910.html>

Branc
Brand New Creativity

ホーム / 映像コンテンツ / ビジネス / メディア / グローバル / テクノロジー / 働き方 / 映画・アニメ / その他

グローバル / 中東・アフリカ

TICAD9で「アフリカのマンガ産業」シンポジウム開催、赤松健議員と現地のマンガ家が未来を議論

TICAD9にて、「アフリカ諸国のマンガ産業」をテーマにしたシンポジウムが開催。参議院議員の赤松健氏とアフリカ出身のクリエイターらが登壇し、発展するアフリカのマンガ市場の現状と課題、そして日本との連携の可能性について活発な議論が交わされた。

最新記事

LIVE BOARD、電通「MIER O Digi x TV」のDOODH対応に協力、テレビ・デジタルを含む媒体での統合リーナー分岐を実現

フジ・メディアHD、業務アニメ種1,057万稼を先頭、政務保有総額減を30連

TBSホールディングス、ベトナム国営放送VTVと戦略的アライアンス締結、「SAS UKE」復活を機にアジア市場へ再展開

Xsolla、日本市場攻略を本格化一新責任者に元円谷プロ執行役員の種分基孝氏が就任



アフリカで熱を帯びる日本マンガ、創作の原点と現地のリアル

シンポジウムでは、アフリカの第一線で活躍するクリエイターが、自身の創作活動の原点として日本のマンガ・アニメがいかに大きな影響を与えたかを語った。

モロッコ出身のビジュアルアーティスト、ユネス・エル・ハルシ氏は、80年代に放送されていた「UFOロボグレンダイザー」や「真流」に衝撃を受けたと述べた。一方、カメルーン出身でセネガルを拠点に活動するジャン・ビンジュリ氏は、90年代にフランスのケーブルテレビで見た「ドラゴンボール」のダイナミズムとエネルギーに魅了されたことが、創作の道を志すきっかけだったという。

彼らの語ったことに対し、赤松健議員は「お二人とも非常に詳しい」と驚きを示した。日本のマンガ・アニメが世界で人気を博す理由について聞かれると、赤松氏は「表現の自由」が日本の強みであると指摘。「様々なトピックが描ける環境が多様な作品を生み出し、その中から特に面白いものがアニメ化されるというシステムがあるのが強み」との見解を示した。



個別取材内容を含み、詳細に掲載
(※この下にも記事掲載あり)

アーカイブ配信

●9月18日(木)にYouTubeにて一般公開

https://www.youtube.com/watch?v=Qry-u_8XyA0



TICAD9 文化庁主催シンポジウム「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」

V... アナリティクス 動画の編集 高評価 共有 ...

153 回視聴 2025/09/17 パシフィコ横浜
2025年8月21日(木)にTICAD9にて開催された「アフリカ諸国のマンガ産業」に関するシンポジウムのアーカイブ動画です。

- 【シンポジウム概要】
- ・シンポジウム「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」
 - ・8月21日(木) 14:00~15:30にパシフィコ横浜にて開催
 - ・日仏同時通訳(※本動画は、日本語同時通訳音声にて公開)
 - ・主催：文化庁

- 【登壇者】
- ・赤松 健氏 (漫画家・参議院議員/文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官)
 - ・Younes El haroussi氏 (漫画家/モロッコ出身・在住)
 - ・Jean Bindjoul氏 (漫画家/カメルーン出身・セネガル在住)
 - ・モデレーター：ユースギョン氏 (漫画研究者/京都精華大学国際文化学部専任講師)

●視聴回数(～2026年3月31日まで)

331回

●VIPOメールニュースおよび

PR TIMESからもプレスリリースを発信(9月18日発信)

【アーカイブ映像公開 / 実施報告】日本マンガはアフリカでも大人気！ TICAD9 文化庁主催シンポジウム「アフリカ諸国におけるマンガ産業とその市場について」

赤松 健文部科学大臣政務官が登場！令和7年度文化庁「国際文化交流・協力推進事業」第9回アフリカ開発会議 TICAD9 にて開催されたシンポジウムのアーカイブ映像を公開しました！

映像産業振興機構 (VIPO) 2025年9月18日 14時30分



アーカイブ配信

●文化庁様Instagram(2025年9月18日公開)

<https://www.instagram.com/p/DOvN8Yoky6H/>



●文化庁様Xアカウント(2025年9月18日公開)

https://x.com/prmag_bunka/status/1968578656361398581



アーカイブ配信



●文化庁様Facebook(2025年9月18日公開)

https://www.facebook.com/bunkacho/?locale=ja_JP



実施概要 アフリカ5か国のマンガ市場調査

●アフリカ5か国のマンガ市場調査(現地調査)概要 * 詳細内容は別紙の報告書をご確認ください

渡航期間: 2025年12月4日～23日

渡航場所: 南アフリカ(ヨハネスブルク・ケープタウン)、ケニア(ナイロビ)、ナイジェリア(ラゴス)、モロッコ(カサブランカ・ラバト)、エジプト(カイロ)

調査項目:

- ・市場の特徴 ・価格帯 ・言語 ・販売チャネル(書店・モール・EC等)
- ・海賊版 ・検閲 ・現地で人気の日本マンガのタイトル ・ファンダム ・その他特記事項

調査員: 古里卓巳氏(ルーディムス株式会社 最高執行責任者)

佐藤 翔氏(ルーディムス株式会社 代表取締役)

●実施内容①:「アフリカ5か国のマンガ市場調査」報告セミナーの実施

実施日: 2026年3月6日(金) 15:30～18:30

登壇者: 古里卓巳氏・佐藤 翔氏(現地調査員)

プログラム: 15:30～17:30 調査報告セミナー

17:30～18:30 交流会

会場: 日本出版クラブビル3F会議室

定員: 80名程度(先着順)

主催: 文化庁

●実施内容②:「アフリカ5か国のマンガ市場調査」報告書とセミナーアーカイブ動画の公開

公開日: 2026年3月27日(金)

告知サイトURL: <https://www.vipo.or.jp/news/54564/>

アーカイブ動画URL: <https://youtu.be/QPOP4w14XIs>

報告書ダウンロードURL: <https://www.vipo.or.jp/u/africa-manga-market-report-2026.pdf>

Copyright VIPO. All rights reserved.



※モロッコでの学生ヒアリングの様子



※ナイジェリアのスラム街で遊ばれているゲームの様子

実施内容①: 「アフリカ5か国のマンガ市場調査」報告セミナー

実施日: 2026年3月6日(金) 15:30-18:30
※受付: 15:00~
会場: 日本出版クラブビル3F会議室
定員: 80名程度(先着順)

●登壇者

- ・古里卓巳氏
ルーディムス株式会社 最高執行責任者
- ・佐藤 翔氏
ルーディムス株式会社 代表取締役
※共に現地調査員



開催日時 2026年3月6日(金) 15:30 - 17:30

会場 日本出版クラブ 3F 会議室



※セミナー告知用キービジュアル

実施内容①：報告セミナー 事前告知

●8月4日(月)にVIPOメールニュースにて発信 (コンテンツ業界関係者:登録者1.5万人超)

「VIPO (映像産業振興機構) からのお知らせ」

2026/2/16

[正しく表示されない方はこちら](#)

令和7年度文化庁「国際文化交流・協力推進事業」
「**アフリカ5か国のマンガ市場調査**」報告セミナーを3月6日(金)に開催!
参加者募集開始

アフリカ 5か国のマンガ市場調査
報告セミナー

古里 卓巳
ルーツコムス株式会社
取締役 代表取締役

佐藤 翔
ルーツコムス株式会社
代表取締役

開催日時 2026年3月6日(金) 15:30 - 17:30
会場 日本出版クラブ 3F 会議室

文化庁

VIPO (ヴィーポ) は、令和7年度文化庁「国際文化交流・協力推進事業」の一環として、「アフリカ5か国のマンガ市場調査」報告セミナーを3月6日(金)に開催いたします。本事業は、日本の文化コンテンツの代表格であるマンガについて、日本・アフリカ間の文化及び人材交流を深化させるとともに、アフリカで関心が高まりつつある日本のマンガの将来的な展開につなげることを目的としています。

この度、本事業にてアフリカ5か国の現地調査を約3週間にわたり実施し、アフリカのマンガ市場の詳細について、とりまとめを行いました。本セミナーでは、その調査結果をいち早くご紹介いたします。実際に現地で調査したからこそ分かる生の声や、それぞれの国特有の事情など、他では聞けない貴重な内容となりますので、アフリカのマンガ事情や現地でのマンガ展開についてご関心のある方は、ぜひご参加ください。

[セミナーへのお申し込みはこちら \(無料\)](#)

●同日程にて、PR TIMESからもプレスリリースを発信

PR TIMES クラウドニュースリリースサービスPR TIMES

プレスリリース発信 企業登録申請 ログイン

Map | ナビゲーション | モバイル | アプリ | エンタメ | ビジネス | ファッション | ライフスタイル | ビジネス | グルメ | スポーツ

特定非営利活動法人映像産業振興機構 (VIPO) 会社概要 プレスリリース フォロー

文化庁主催「アフリカ5か国のマンガ市場調査」報告セミナー参加者募集～3月6日(金)開催(対面/無料)

令和7年度文化庁「国際文化交流・協力推進事業」(TICAD9関連イベントに係る調査及び企画運営実施業務)

映像産業振興機構 (VIPO) 2026年2月16日 11時30分

特定非営利活動法人映像産業振興機構(略称:VIPO [ヴィーポ])、理事長:松谷孝征、東京都中央区は、令和7年度文化庁「国際文化交流・協力推進事業」の一環として、「アフリカ5か国のマンガ市場調査」報告セミナーを3月6日(金)に開催いたします。

本事業は、日本の文化コンテンツの代表格であるマンガについて、日本・アフリカ間の文化及び人材交流を深化させるとともに、アフリカで関心が高まりつつある日本のマンガの将来的な展開につなげることを目的としています。

この度、本事業にてアフリカ5か国の現地調査を約3週間にわたり実施し、アフリカのマンガ市場の詳細について、とりまとめを行いました。本セミナーでは、その調査結果をいち早くご紹介いたします。実際に現地で調査したからこそ分かる生の声や、それぞれの国特有の事情など、他では聞けない貴重な内容となりますので、アフリカのマンガ事情や現地でのマンガ展開についてご関心のある方は、ぜひご参加ください。

アフリカ 5か国のマンガ市場調査
報告セミナー

古里 卓巳
ルーツコムス株式会社
取締役 代表取締役

佐藤 翔
ルーツコムス株式会社
代表取締役

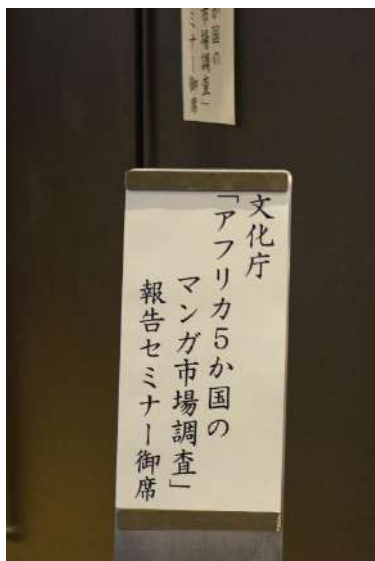
開催日時 2026年3月6日(金) 15:30 - 17:30
会場 日本出版クラブ 3F 会議室

文化庁

実施内容①：報告セミナー 当日



※現地調査でのエピソードを交え、報告をする登壇者古里氏と佐藤氏



※出版クラブビル正面および会場入り口に案内板を設置



※申込者殺到につき直前に会場を拡大したため、適度な間隔で聴講者が着席できたセミナー会場

実施内容①：報告セミナー 参加者状況

●事前申し込み

事前申し込み期間：2026年2月16日（月）～2月18日（水）9:30 ※約2日で定員に達した。

一般事前申込者数：94名

関係者事前申込者数：18名

●当日参加

一般当日参加者数：55名

一般当日飛び込み参加：1名（同席者が申込漏れ）

一般出席率：58%

関係者当日参加者数：18名

関係者出席率：100%

⇒参加者数合計73名（総出席率65%）

※18:30の終了時まで多くの参加者が登壇者を含めて交流を続けていた。



実施内容①：報告セミナー 参加者アンケート(集計結果)

- 一般当日参加者へセミナーについてのアンケートを実施
実施期間:2026年3月6日(金)~3月11日(水)
回答数:25名(回答率45.5%)

●回答者の属性

【出版社・取次】

KADOKAWA(2名) 竹書房(2名) アース・スター
ヒーローズ 一迅社 TOブックス
ぶんか社 日本能率協会マネジメントセンター
トーハン(2名)

【放送・配信・映像】

TBSテレビ クランチロール 松竹撮影所 メディアアシスト

【広告代理店】

電通 読売広告社 角川メディアハウス

【大学】

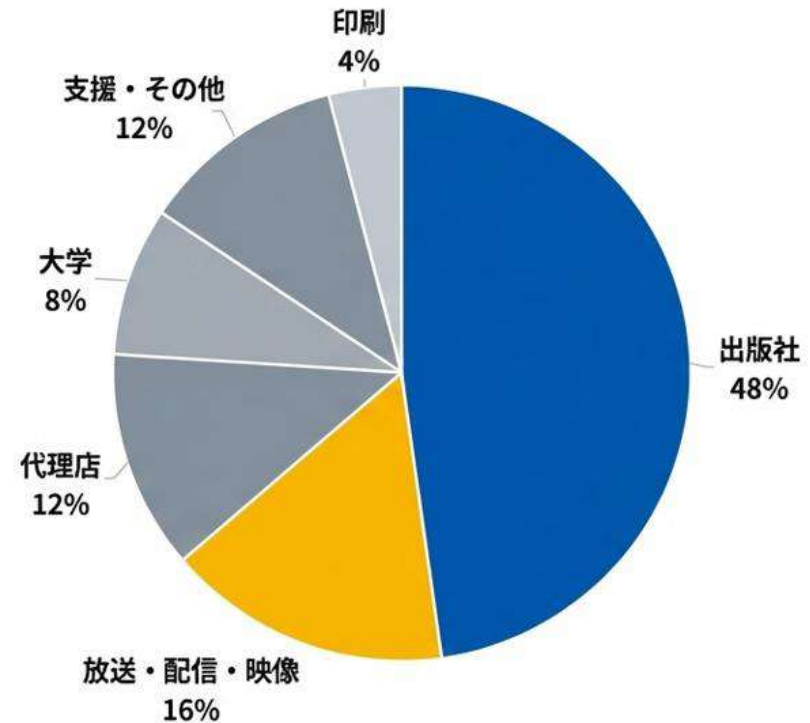
明治学院大学グローバルコミュニケーション 筑波大学

【支援・その他】

海外需要開拓支援機構 中東協力センター ILY.

【印刷】

共同印刷



※出版社だけでなく、他コンテンツジャンルからもアフリカが注目されていることが分かる

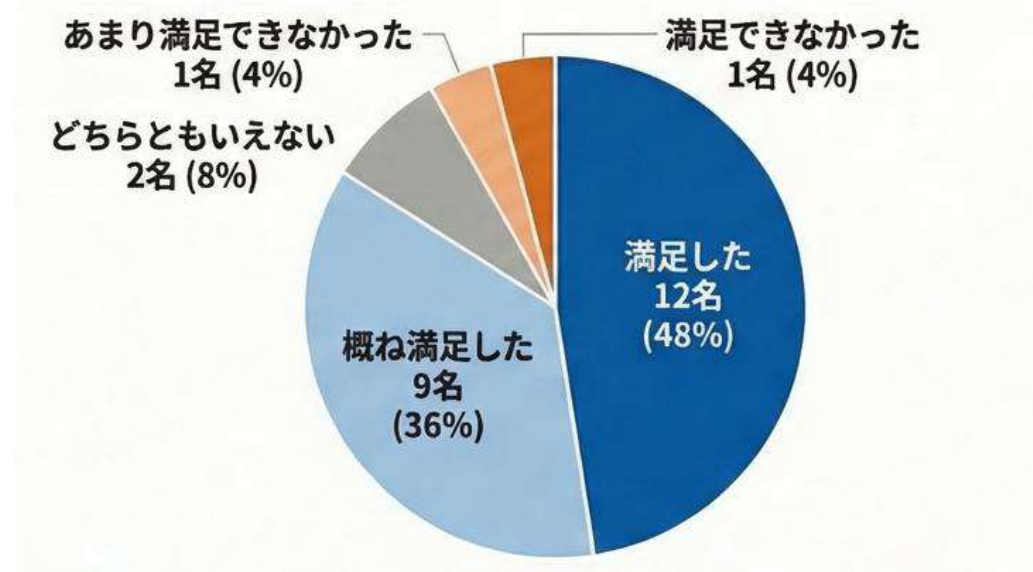
実施内容①：報告セミナー参加者アンケート(集計結果)

●セミナーの満足度

選択肢	回答数	割合
満足した	12	48%
概ね満足した	9	36%
どちらともいえない	2	8%
あまり満足できなかった	1	4%
満足できなかった	1	4%

●満足度の理由

- ・治安等の理由で簡単に行くことができないエリアまでも調査が及んでいたため、自分たちで調べられることより遥かに沢山のことを教えていただいたと思う。(KADOKAWA)
- ・情報のほとんどないアフリカについて詳細なレポートであったため(アース・スター)
- ・主要アフリカ国家のマンガの需要状況が理解できたから(一迅社)
- ・アフリカ圏についてはまったく知識がなかったため大変興味深かった(トーハン)
- ・日本製漫画の世界市場拡大を行う上で、非常に参考になりました(角川メディアハウス)
- ・ぼんやりとしか理解できていなかったアフリカ諸国のそれぞれの違いの一端を垣間見ることができました。また流通や本の内容、言語などそれぞれの社会構造も少しイメージできる内容であったのも貴重な機会となりました(読売広告社)
- ・情報が少ないアフリカの市場の確認が出来たこと(海外主要開拓支援機構)
- ・アフリカでのコミック事情がわかった(クランチロール)
- ・現地の温度感が理解できた(電通)
- ・世界における日本コンテンツの一旦の位置が理解できた(松竹撮影所)
- ・アフリカ地域では書店の流通網がないとの話を耳にしていたので、経済状況のデータ、現場の書店、関係者の話など細部まで押さえられてのデータ取得は有難く思います。(メディアアシスト)
- ・結局日本の出版社でできることは限られており、英語出版社の範疇の話であるように感じたため(ヒーローズ)
- ・調査内容がありきたりだと思いました。一方で、個別質問した際は細かな体験をお持ちだったので、セミナーではそういった細かな話(デスクリサーチではわからない話)をお話いただけるとよかったです。(ILY.)



※回答者の80%超が「満足した」「概ね満足した」と回答しており、セミナーの内容が一定の評価を得ている。

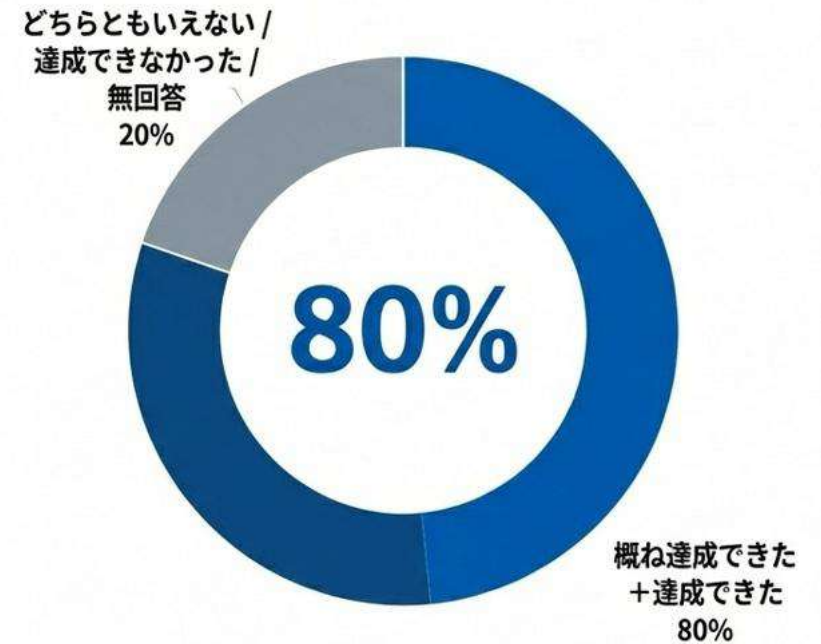
実施内容①：報告セミナー参加者アンケート(集計結果)

●今回のセミナーで期待していたこと、知りたいと考えていたこと

- ・コミックを流通させる地盤(インフラ、流通チャネル)がどれほどあるのかということ(KADOKAWA)
- ・市場の有無、媒体、購買層、購買方法などを知りたく思っていました。(海外需要開拓支援機構)
- ・アフリカの中でも、国や地域による日本のコンテンツの受容状況の違い
- ・期待していたこと:アフリカ各国でのスマホ普及率、アニメ以外の作品も読まれているか
- ・知りたかったこと:紙と電子の割合、現地語翻訳本は汎用させられているのか、購入する場合のお金の出所(一迅社)
- ・アフリカでのコミック認知度(クランチロール)
- ・アフリカでの現地言語でのローカライズがどの程度されているのか(竹書房)
- ・映像企画に取り組むにあたり、アフリカに限らず、漫画およびアニメーションという世界に広がりつつあるエンタメがそれぞれのエリア・地域・国・言語・宗教でどのように受容され、あるいはされていないのかを理解したいと考えているため、そのための一助になればと参加いたしました(読売広告社)
- ・アフリカ圏の現状、需要、他言語版の流通状況(トーハン)
- ・アフリカでの日本のマンガIPの浸透度(電通)
- ・海賊版での流通具合と市場での日本製マンガの浸透可能性について(メディアアシスト)
- ・性的表現や宗教観など、現地で禁止されている表現はあるのか。(ILY.)
- ・紙や電子の漫画の流通や出版に特化される情報(ぶんか社)

●その目的の達成度

選択肢	回答数	割合
達成できた	7	28%
概ね達成できた	13	52%
どちらともいえない	2	8%
達成できなかった	2	8%
無回答	1	4%



※回答者の80%が「達成した」「概ね達成した」と回答しており、知りたかった内容に対して、一定の回答を得られたものと思われる。

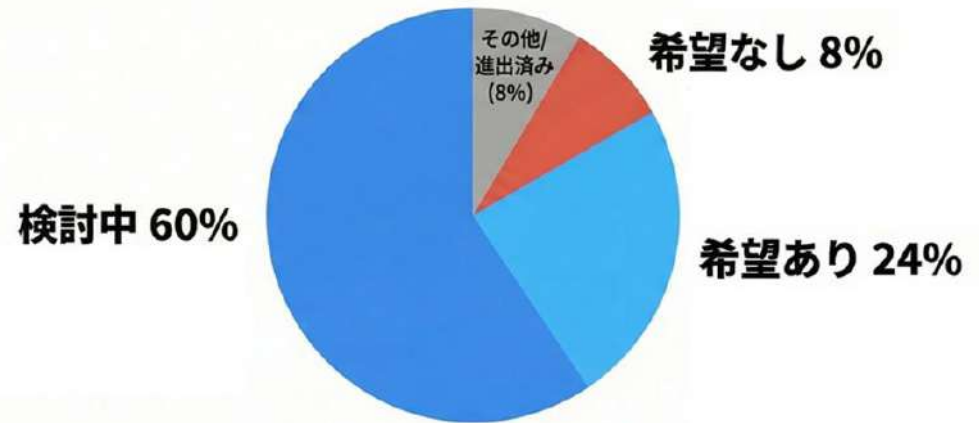
実施内容①：報告セミナー参加者アンケート(集計結果)

●今回のセミナーの実施方式について良かった点、逆に改善すべき点

- ・情報が少ない中での発信はとても有意義でした。それだけに質問を多く受けられると効果的と感じております。(海外需要開拓支援機構)
- ・概況に年齢構成を入れてほしかった。(読売広告社)
- ・未訪問の国の状況も知りたい(一迅社)
- ・定期的にやっていただけるといいと思いました。他の地域もやってほしいです。アニメや実写映像も知りたいです。(TBSテレビ)
- ・国別に話されてましたが、国を横軸にして、各国の比較があったほうがわかりやすかったです。(ILY.)
- ・アーカイブ視聴がある場合は事前に告知をお願いしたい(メディアアシスト)
- ・内容、会場ともに良かった(共同印刷)
- ・コーヒーまでご用意いただき、とてもリラックスした雰囲気でした。(読売広告社)

●アフリカ諸国へのビジネスの進出希望

選択肢	回答数	割合
既に進出済み	2	8%
希望あり	6	24%
検討中	15	60%
希望なし	2	8%



※「既に進出済み」は電通と中東協力センターのみ。
「希望あり」はTBSテレビ、松竹撮影所等で出版社は竹書房とアース・スターの2社のみ。
出版社を中心に回答者の6割が「検討中」となっている。

実施内容①：報告セミナー参加者アンケート(集計結果)

● 今後、アフリカ諸国のマンガ産業について知りたい内容

- ・現地出版社の日本マンガに対する意見(TOブックス)
- ・市場として、Businessになるのか？(共同印刷)
- ・進出すべき市場がどこにあるのか、その進出時の留意点(海外需要開拓支援機構)
- ・アフリカ各国にはマンガを扱う出版社はあるのか？翻訳が英語か仏語が主流ということは、出版社がなくても流通の会社があれば、アメリカ、フランスから輸入すれば成り立ってしまうので(一迅社)
- ・本日の5ヶ国以外の市場状況、特にマグレブ諸国(竹書房)
- ・今回は調査時期の制約からか、各国でのコミコンについて殆ど言及がなかったが、それが一部の熱心な層だけのものなのか、幅広く影響力を持つものなのか知りたいと思った。(中東協力センター)
- ・アジア発信の文化形態が受容されるかどうか、中国資本の動きの有無とそれが参考になるか否か(メディアアシスト)

● 日本書籍のアフリカ諸国への展開にあたり、現在、課題に感じていること

- ・海賊版の横行(KADOKAWA)
- ・現地の実態把握が困難、リスクがどの程度あるのか見えない、現地出版社の信用度を図るすべがない(トーハン)
- ・そもそもアフリカ各国の識字率が低ければマンガほかの展開は難しい。親を説得してお金を出させるのも勉強ができる子、優等生は可能だが、劣等生は難しい。が、そもそもマンガ読者は劣等生だった気もして複雑な気持ちではある(一迅社)
- ・直接のビジネスは難しい。パートナーの開拓が問題(日本能率協会マネジメントセンター)
- ・現状では欧米での出版が前提と見ており、日本書籍を独自に展開するためには初期投資をどう考えるか、公的な支援が受けられるかどうか(メディアアシスト)
- ・英語版が主な流通言語でしたら、紙と電子版はどのように流通させるか鍵ではないかと思っております。(ぶんか社)
- ・認知活動からになる中で、どのエリアから、段階から進めるべきか、またそのネックについて何があるのかを知ることです。(海外需要開拓支援機構)
- ・まだ、現時点では、価格面と経済状況から、本が売れない可能性(共同印刷)

● その他ご感想・ご意見

- ・TICAD9のセミナーでは、日本のように雑誌が存在しない状況でマンガがどう進出するかという議論があった。他方、エジプトでは日本企業が現地でマンガやアニメを描く指導を始めているケースもある。特に人口の多い国や文化・経済圏では、書籍単体、一企業単体ではない多面的な展開が有効なように考えられる。(中東協力センター)

実施内容②： 報告書とセミナーアーカイブ動画の公開

公開日：2026年3月27日（金）11:30
告知サイトURL：<https://www.vipo.or.jp/news/54564/>
アーカイブ動画URL：<https://youtu.be/QPOP4w14XIs>
報告書ダウンロードURL：
<https://www.vipo.or.jp/u/africa-manga-market-report-2026.pdf>

- 視聴回数（～2026年3月31日まで）
119回
- 報告書ダウンロードページアクセス数（～2026年3月31日まで）
16件
（平均滞在時間1分29秒）



開催日時 2026年3月6日（金）15:30 - 17:30
会場 日本出版クラブ 3F 会議室



文化庁主催「アフリカ5か国のマンガ市場調査」報告セミナー

9回視聴 2026-03-12

2026年3月6日（金）に開催された「アフリカ5か国のマンガ市場調査」報告セミナーのアーカイブ動画です。

【セミナー概要】
・「アフリカ5か国のマンガ市場調査」報告セミナー
・2026年3月6日（金）15:30～17:30に日本出版クラブにて開催
・主催：文化庁

【登壇者】
・ルーティムス株式会社 最高執行責任者 古里卓巳氏
・ルーティムス株式会社 代表取締役 佐藤翔氏
（共に「アフリカ5か国のマンガ市場調査」現地調査員）

【内容】
アフリカ5か国（南アフリカ・ケニア・ナイジェリア・モロッコ・エジプト）の下記項目におけるマンガ市場調査結果の報告
・市場の特徴 ・価格帯 ・賞格 ・読み手層（書店・モール・EC等）
・海賊版 ・絵巻 ・現地で人気の日本マンガのタイトル ・ファンダム ・その他特記事項

【目次】
00:00 ご挨拶・調査目的
11:51 南アフリカ
35:03 ケニア
58:45 ナイジェリア
1:22:59 モロッコ
1:35:08 エジプト
1:47:59 Q&A